教員・教育担当者養成課程 看護コース カリキュラム

１　本コースの位置付け

本コースは、神奈川県が厚生労働省の認定を受けて実施している「専任教員養成講習会」です。修了後には看護師等養成所の専任教員の要件を得ることができ、同時に保健師・助産師・看護師の実習指導者としても認められます。専任教員を目指す人はもとより、病院の現任教育担当者や実習指導者など、看護教育の分野で活躍できる人材の育成に必要な人間理解を基盤とした幅広い知識や技術を学ぶことができます。

２　本コースの特徴

本コースでは、看護教員となるために必要な教育方法や看護教育課程等を学び、看護教育実習において授業の実践を行います。

（１）　通学による対面授業は演習時間を多く取り入れ、お互いのディスカッションを通して、学習内容の理解を深めます。

（２）　少人数のグループで取り組む演習の科目を複数設け、さまざまな経験をしてきた学習者同士が学び合う環境づくりをしています。本コースの担当者が、科目ごとの学びがつながるように支援し、学習者の個別の学習過程に伴走する形での指導を行います。

（３）　「授業デザインの６つの構成要素」に取り組み、構成要素間の関連性を大切にしながら授業案を作ります。未経験でも取り組めるように、支援していきます。

（４）　リフレクションによって授業の場で起きていたことを確かめ、自らの経験から学ぶことを目指します。

（５）　本コースでは、自らの学習スタイルに合わせ、学び方を選ぶことのできる科目を設定しています。

（６）　看護基礎教育における第５次改正カリキュラムに対応した学習内容となっています。

３　科目区分・日程等

（１）科目区分

必修科目：卒業するために必ず履修しなければならない科目です。
選択科目：卒業要件とは関わりなく、選択する科目です。

（２）必修科目（680 時間）・日程（予定）

<table>
<tr><th></th><th>必修科目</th><th>選択科目</th></tr>
<tr><td>e ラーニング履修
４科目の場合</td><td>通学：590 時間
e ラーニング：90 時間</td><td rowspan="2">90 時間</td></tr>
<tr><td>e ラーニング履修
６科目の場合</td><td>通学：560 時間
e ラーニング：120 時間</td></tr>
<tr><td>授業時期</td><td>４月～12 月
（４月開講、10 月中旬～11 月：看護教育実習中心）</td><td>５月～２月</td></tr>
</table>

＜カリキュラムの概要＞

【教育内容】

・科目名の★印はｅラーニングによる履修科目、☆印はｅラーニングによる履修が選択可能な科目です。　（多少変更することがあります）

分野	科　目　名	時間	単位	科目履修	内　容	ね　ら　い
基礎分野（必修）	ヒューマンサービス論	20	1	不可	・ヒューマンサービスの理念 ・ケアの本質と哲学 ・人間関係論 ・アサーティブコミュニケーション	保健・医療・福祉の連携と総合化の基本理念を学び、人間を全体（総体）として捉えるケアの本質について考える。また、ひととかかわることをとおして他者との相互性について考える。
	★教育原理	15	1	不可	・「教育」及び「教育」概念の原理的理解 ・教育課程論 ・教育制度の理論及びその現代的課題の理解	教育史、教育思想、教育の社会的、法・制度的事項、カリキュラム開発の考え方や学校教育におけるカリキュラムの役割などの理論的背景、学力との関わり、カリキュラム開発・運用における教師の専門性、教育の経営的事項、教育の現代的課題について学習する。
	教育方法	15	1	不可	・教育方法とは何か ・授業のしくみとはたらき ・学習者の実態把握と理解 ・教材の研究と理解 ・ねがいと授業目標の明確化 ・教授方略、学習環境・条件　など	授業のしくみとはたらきについて理解し、授業をデザインする具体的方法を学ぶことで、教育実践の本質を考える。
	☆教育心理	15	1	可	・人間の発達と教育の過程における心理 ・現代若者の特徴 ＜ｅラーニング＞ ・学習 ・発達 ・認知過程 ・学習指導	人間の発達と学習課程における心理的な特徴についての基本的知識および必要な理論を学ぶ。教育に必要な心理学的知見を理解するとともに、教育心理学的な見方を学ぶ。
	☆教育評価	15	1	可	・教育評価とは何か ・学生、教員、教育組織の評価 ・創造的な教育評価の実践 ＜ｅラーニング＞ ・教育評価の基本概念 ・教育の目的と評価の役割 ・教育成果の測定・評価方法 ・教育活動自体の評価	教育における評価の概念を捉え直し、教育実践と評価の関係を考察する。
	★情報通信技術	15	1	不可	・ICT 活用の目的 ・教育における ICT ・看護現場における ICT ・情報管理と情報倫理 ・効果的なデータ処理 ・LMS の学校運営への活用	情報リテラシーの向上のため、情報社会に対応する基礎的知識及び看護師等養成所の組織運営に 係る情報通信技術を学ぶ。
小　計		95	6			

分野	科　目　名	時間	単位	科目履修	内　容	ね　ら　い
専門分野（必修）	看護論	15	1	不可	・看護原論 ・人間関係的看護論	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、これまでの看護実践における経験を振り返り意味づけ、看護についての視野を広げる。
	看護論演習	30	1	不可	・看護理論の読み方と活用 ・看護実践と看護理論 ・生命倫理学 ・看護倫理	生命倫理や看護における倫理、看護理論について理解を深め、看護実践への活用について学び、実践してきた看護を言語化することをとおして自己の看護観を再考する。
	看護教育論	15	1	不可	・看護教育を学ぶ自己の課題 ・看護教育を考える	看護教育のあり方について考え、自己の看護教育観をはぐくむ。
	看護教育制度論	15	1	可	・看護教育制度 ・保健医療福祉の動向 ・生涯教育	看護教育制度の変遷と現在の教育制度について理解し、視野を広げる。
	★看護教育課程論	45	3	不可	・教育課程とは ・看護基礎教育の特徴と教育課程との関連 ・特徴ある教育課程編成の意義 ・看護教育課程編成の実際 ・領域横断型カリキュラム ・領域横断型カリキュラムの実際 ・基礎看護学 ・地域・在宅看護論 ・成人看護学 ・老年看護学 ・小児看護学 ・母性看護学 ・精神看護学 ・看護の統合と実践	【教育課程展開】　教育課程は学習者の学習体験を創造し、学校の教育活動の中核に位置する。看護基礎教育に求められる教育課程は、時代、医療の変化に応じて変化するため、各施設の理念に基づき常に検討し時代に即した看護職の育成を目指さなければならない。本科目では、看護教育課程の編成に関する基礎的な知識を学ぶ。 【領域横断】　カリキュラム評価で明確になった課題や社会のニーズを踏まえ、柔軟なカリキュラム開発の一方法として、指定規則に定められた領域を横断するカリキュラムの意義とその実際を学ぶ。 【各専門領域】　看護基礎教育における各看護学、地域・在宅看護論、看護の統合と実践の位置づけと構造を学ぶ。
	看護教育課程演習	60	2	不可	・看護教育課程編成のプロセス ・各看護学領域における主要概念 ・教育理念・教育目標・教育内容など	看護教育課程編成のプロセスを経験し、看護教育の展開に役立てることができる。
	看護教育方法	90	6	不可	・看護教育方法（概論） ・看護研究の基礎 ・成人学習論　・看護学生の理解 ・学生指導・教育相談 ・講義法　・演習　・臨地実習指導 ・授業研究　・現任教育計画 ・アクティブラーニング　・TBL ・シミュレーション　・ICT の活用	看護職に必要な能力・看護実践力をはぐくむ看護教育方法について理解し、看護教育において学ぶこと、教えることについて考える。講義・演習・実習における授業デザインについて学ぶ。
	看護教育方法演習	90	3	不可	・授業デザインの作成 ・マイクロティーチング ・リフレクション ・ロールプレイング	学生の理解を促進する授業について、経験をとおして学びを深める。

分野	科　目　名	時間	単位	科目履修	内　容	ね　ら　い
専門分野（必修）	専門領域別 看護論演習	60	2	不可	・看護教育実習における講義法等の授業デザインの検討 ・看護の統合と実践（演習）の授業デザインの検討	各看護学の教育目標、教育方法について理解し、授業デザインを学ぶ。
	看護教育実習	90	2	不可	・学習指導案作成 ・講義法による授業とリフレクション ・臨地実習指導　　など	実習校での教育活動を通して、看護教育者としての基本姿勢や役割、教育方法について学ぶ。
	看護教育評価	30	2	不可	・看護教育評価（概論） ・看護教育評価（授業評価）	看護教育内容の評価方法を理解し、授業を改善する手立てを学ぶ。 看護教育における講義・演習・実習評価の考え方、評価の目的と評価方法について学ぶ。 マイクロティーチングや看護教育実習を通して自己を見つめ、自ら授業を改善する手立てを学ぶ。
	看護教育評価 演習	30	1	不可	・基礎看護技術の技術テストの作成（パフォーマンス評価）	看護教育評価のプロセスを学び、看護教育展開に役立てる。
	★看護学校 組織運営論	15	1	不可	・学校組織運営の基本 ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則と看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの理解 ・学校組織運営における教員の役割 ・学校組織運営に係る資源管理の基本 ・看護学校組織運営評価 ・学校組織運営における今後の課題	【講義の概要】看護学校組織運営論では看護師等養成所の組織運営の基本を理解し、組織の構成員としての自己の役 割を認識する。また、看護学校組織運営の根拠となる看護学校指定規則及び看護師等養成所の運営に関 する指導ガイドラインについて学び法的な位置づけを理解する。さらに学校の自己点検・自己評価について理解し、積極的に参画する姿勢を養う。
小　計		585	26			
必修合計		680	32		※うち e ラーニング必修科目６単位 90 時間	

分野	科　目　名	時間	単位	科目履修	内　容	ね　ら　い
選択科目	現任教育計画演習	15	1	不可	・現任教育計画における研修の位置づけの明確化 ・研修の授業デザイン	現任者教育における研修の授業デザインのプロセスを学ぶ。
	看護研究概論	15	1	不可	・研究デザイン ・文献検索 ・研究倫理	研究に関する基本知識を理解し、研究的態度を培い看護教育実践に活かす。
	看護研究演習	45	2	不可	・リサーチクエスチョン ・研究計画書 ・研究成果のまとめ方 ・研究成果の伝え方	研究計画書の作成をとおして、看護研究計画の一連のプロセスを経験する。
	論理学	15	1	不可	・認識原論 ・表象的認識 ・概念化をめぐって ・認識三論	［認識の三段階連関理論］をとおして、認識の深まる思考過程を学び、看護教育実践と教育担当に活かす。認識発展の論理と法則性について学び、論理的に思考する能力を高める。
小　計		90	5			
必修・選択 合計		770	37			